

平成30年度米子市スポーツ推進審議会 発言要旨

《子供のスポーツ活動の推進について》

少年スポーツ教室の人数が、増加している種目もあるが、全体としては、減ってきているので、子供のニーズにあった対策をとってほしい。

最近、指導者のパワハラが世間を賑わしているが、スポーツ少年団の指導者に対して、パワハラについての教育や指導は、きちんと行われているのか。昔ながらの体質は、今の時代に合わない。

運動をする子供としない子供の2極化が進んでいるようであるが、学校の先生は、多忙であり、部活動まで手が回っていないのではないかと感じる。部活動には、外部指導者も導入されているようであるが、実態はどのようになっているのだろうか。学校部活動については、県の審議会においても、報告事項で挙がっていたので、市にも、ガイドラインが降りてくると思う。学校部活動のあり方について、市でも協議の場を設けることはできないだろうか。

事務局⇒平成30年度に夏期少年スポーツ教室で空手道教室を実施した。空手道もオリンピック種目になるということであり、今後も子供のニーズを捉えて、教室の開催種目を検討していきたい。

スポーツ少年団の指導者は、皆、教育を受けた認定員である。平成29年度にも指導者が集まる会で、暴力禁止について、事務局から話をしたところである。学校部活動の問題については、教育委員会を通じて、実態把握に努めていきたい。また、協議の場を設けることについても、教育委員会に相談してみる。

《成年期からのスポーツ活動の推進について》

成年期の健康寿命の延伸が課題であるが、働き盛りの人のスポーツ活動が少ないようである。「いつまでも若々しく活躍する元気づくり教室」といった取組は、普段スポーツをしない人がスポーツを始めるきっかけにもなり、効果があると思うが、平成29年度で廃止になっている。PR等が不足していたのではないかと感じる。廃止ではなく、継続してほしい。

事務局⇒「いつまでも若々しく活躍する元気づくり教室」は、日中に開催していたので、参加者が少なかったのかもしれない。現在、平成31年度の再開に向けて、検討しているところであり、再開に向けては、夕方や夜間の開催とした方が、民間のジムとの調整が必要になってくる。

《障がい者のスポーツ活動の推進について》

障がい者スポーツについては、広報がうまくできていないのではないかと感じる。市の所管を障がい者支援課からスポーツ振興課に移して、教室等を実施したり、障がい者スポーツ大会を招致してほしい。特に、特別支援学校では、夏休みや冬休みに部活動が実施されていないので、その時期に教室を実施してほしい。

事務局⇒障がい者支援課が所管している事務のすべてをスポーツ振興課に移すのは、難しい。なお、現在でも、皆生市民プールにおいて、障がい者向けの教室等を実施している。また、障がい者スポーツについては、指導者が不足していると感じているので、競技団体の協力があると助かる。

《地域のスポーツ活動の推進について》

ニュースポーツの道具が米子市民体育館に常備されていないので、鳥取まで借りに行っている状況であり、公民館で普及しようと思っても、なかなかすることができない。米子産業体育館には、道具が幾らかあるようであるが、米子市民体育館にも道具を常備して、貸し出せるようにしてほしい。

地区体育館や学校体育館の利用については、夜の空きがほぼない状況であると思う。将来的には、利用の仕方を工夫することを考えないといけないかもしれない。

地域の高齢者向けに公民館で行事を開催しても、公民館まで自力で歩いていけない人がいるのではないかと感じる。

地域の公園に設置してある鉄製の遊具が老朽化してきており、自治会も管理するのが大変な状況である。利用者も少ないようであるので、遊具を撤去し、芝生化したらよいのではないだろうか。

事務局⇒ニュースポーツは、種目が多岐にわたっており、道具の価格も高額であることから、道具を常備するにあたっては、種目を絞る必要がある。

体育施設を増やすことは、難しいが、地区体育館や学校体育館の利用者が多くいることを念頭に置き、今後の体育施設の整備にあたっていきたい。

公民館まで来ることができない高齢者もいることから、自治会の集会所まで出向いて、行事を開催することもあるが、それでも来ることができない高齢者の方もいる。何か災害があった時にも避難所まで来ることができないということになるので、日頃から、自分の体力を把握しておくことが重要である。公園整備の在り方については、担当課に確認をしてみる。

《スポーツに触れる機会の提供について》

中海オープンウォータースイムを支援することにより、米子市民の環境意識の高さを示してほしい。きれいな中海という市民意識が安来市等の近隣市町村にも広がっていくのではないかと感じる。

事務局⇒オープンウォータースイムは、オリンピック種目にもなっており、最近では、全国各地で開催されるようになってきていることから、中海大会の参加者数は、減ってきている。中海のような駅から歩いていけるような立地条件は、全国でも稀であり、今後は、環境を前面に出して、売り出していきたいと思う。また、皆生トライアスロン大会の選手選考の際に、中海オープンウォータースイムの結果を実績として、加味することができないか検討しているところである。

《競技力の向上について》

各競技団体の方の努力で、全般的に初期の目的は、達成しつつあるのではないかと感じている。また、障がい者スポーツや高齢者スポーツにも取り組んでいるので、事務局には、引き続き支援してほしい。

事務局⇒各競技団体と連携して、引き続き各種施策を実施していきたい。障がい者スポーツにおいては、環境整備の面が遅れていることもあり、まだ弱いのではないかと感じているので、関係者の意見を聞きながら、協力して取り組んでいきたい。

《スポーツ施設等の充実について》

全国ディスコン大会を尾高の米子市勤労者体育センターで開催したが、便所と玄関をスタッフで清掃しても、汚れを落とすことができないくらい汚かった。

中学校総体等の大会の開催にあたっては、以前のように県内の東中西部地区の持ち回りではなく、県内の施設全体の中から会場を決めて開催している。米子市民体育館の整備にあたっては、エアコン設置による熱中症対策とバリアフリー対策をしっかりと実施してほしい。

東山補助グラウンドが有効に活用されていないのではないか。利用者を増やすために、人工芝化したらよいのではないか。また、隣接する便所が汚くて、学生が使いたがらない状況である。木も生い茂っており、根っこが邪魔をしているようなので、管理のことを考えると、間引いてしまえばよいのではないだろうか。

事務局⇒米子市勤労者体育センターについては、施設の所管が文化振興課になるので、伝えておく。

米子市民体育館の整備方針について、現在のところ、改修するか改築するか、決まっていないが、エアコン設置による熱中症対策とバリアフリー対策は、実施しなければならないと考えている。

東山補助グラウンドの整備については、隣の東山陸上競技場の整備で手一杯であり、なかなか手が回っていない状況である。市民体育館の整備方針を検討するなかで、利用率の低い東山補助グラウンドを有効活用することができないか検討しているところである。隣接する便所については、木の根っこが邪魔をしていることは、認識しているが、木の特定ができていない。修繕する際には、何とかしたいと考えている。